

授業科目	身体障害治療学Ⅱ				
担当者	林部 美紀 (実務経験者)				
実務経験者の概要	作業療法士として病院に勤務していた				
学科名	作業療法学専攻	学 年	3年	総単位数	1単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

内部障害・神経筋疾患ごとの特徴を交えて作業療法評価の特徴やアプローチ方法を講義やグループワークを踏まえて学ぶ。また、内部障害・神経筋疾患ごとの作業療法における思考過程を事例を通して学ぶ。内部障害・神経筋疾患ごとの作業療法に応じて痰の吸引や実技を学ぶ。

■ 到達目標

1. 内部障害・神経筋疾患の作業療法評価の特徴やアプローチ方法を理解できる。
2. 内部障害・神経筋疾患の作業療法における思考過程を理解できる。
3. 内部障害・神経筋疾患の作業療法アプローチの際の実技方法を習得できる。

■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・内部障害の概要・心疾患の概要
- 第2回 心疾患の作業療法評価
- 第3回 心疾患の作業療法アプローチ
- 第4回 呼吸器疾患の概要と作業療法評価
- 第5回 呼吸器疾患の作業療法アプローチ
- 第6回 痰の吸引
- 第7回 糖尿病の概要・作業療法評価とアプローチ
- 第8回 がんの概要・作業療法評価とアプローチ
- 第9回 神経筋疾患の概要
- 第10回 パーキンソン評価と作業療法アプローチ
- 第11回 脊髄小脳変性症・ギランバレー・筋萎縮性側索硬化症・多発性硬化症の概要と作業療法評価とアプローチ
- 第12回 内部障害・神経筋疾患の症例検討
- 第13回 内部障害・神経筋疾患の症例検討
- 第14回 呼吸器疾患の作業療法評価とアプローチ例
- 第15回 がんの作業療法評価とアプローチ例

■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）】60%、小テスト20%、レポート・報告20%として評価する。合格は60%以上とする。小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

解剖学・生理学・運動学等の基礎知識や各疾患の知識が必須であるため、事前に知識を整理しておくこと。また、授業時間内ですべてを網羅することは困難である。そのため、それぞれの疾患に関係する解剖学・生理学・運動学や疾患の知識の整理、復習を行っておくこと。毎回復習する時間は30分以上必要である。小テストを実施する。レポート課題を必ず提出すること。

■ 教科書

書名：標準作業療法学-専門分野 身体機能作業療法学 第3版

著者名：矢谷 令子監修

出版社：医学書院

書名：作業療法士のための呼吸ケアとリハビリテーション

著者名：石川 朗

出版社：中山書店

■ 参考図書

書名：心臓リハビリテーション

著者名：上田正博

出版社：医歯薬出版株式会社

書名：がんのリハビリテーションガイドライン

著者名：公益社団法人 日本リハビリテーション医学会

がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会

出版社：金原出版株式会社

■ 留意事項

遅刻・欠席に気をつけること。実技のある日はジャージ着用のこと。

■ 講義受講にあたって

小テストを実施する。レポート課題を必ず提出すること。